

令和 8 年

第 1 1 回教育委員会会議 議事録

秋田県教育委員会

令和 8 年第 1 1 回教育委員会会議 議事録

1 期 日 令和 8 年 6 月 1 日 月曜日

2 場 所 教育委員室

3 開 会 午後 2 時

4 閉 会 午後 2 時 4 0 分

5 出席者 教育長 安田 浩幸
委 員 奥 真由美
吉村 真之
松塚 智宏
大塚美穂子
高橋 重剛

6 説明のための出席者

教育次長	鈴木 雄輝	教育次長	伊藤 悟
総務課長	清水 康成	高校教育課長	佐藤 嘉彦

7 報告事項

- (1) 令和 8 年度秋田県公立高等学校入学者選抜定時制の課程 1 0 月入学生募集要項について
- (2) 令和 9 年度秋田県立湯沢翔北高等学校専攻科学生募集要項について
- (3) 令和 9 年度秋田県立湯沢翔北高等学校専攻科入学者選抜学力検査問題等作成方針について

8 会議の要旨

【安田教育長】

ただいまから、令和 8 年第 1 1 回教育委員会会議を開催いたします。

本日の議事署名は 2 番吉村委員と 3 番松塚委員にお願いいたします。

はじめに、報告事項「令和 8 年度秋田県公立高等学校入学者選抜定時制の課程 1 0 月入学生募集要項について」、高校教育課長から説明します。

【高校教育課長】

報告事項 (1) 「令和 8 年度秋田県公立高等学校入学者選抜定時制の課程 1 0 月入学生募集要項について」説明概要

- ・中学校を卒業したが高校に在籍していない者を対象に 10 月入学生を募集。
- ・募集学校は、大館鳳鳴高等学校定時制の課程の 2 部、秋田明徳館高等学校定時制の課程の 1 部と 3 部、横手高等学校定時制の課程の 1 部、2 部で、若干名を募集。
- ・検査期日は 9 月 5 日土曜日で、選抜方法は作文、口頭試問（国語、社会、数学、理科、英語）及び面接。
- ・合格者発表は 9 月 10 日木曜日で、合格者の受検番号を各校で掲示するほか、各校のホームページで公開。

【安田教育長】

ただいまの説明について、質疑等ございませんか。

【奥委員】

10 月入学で若干名とありますが、大体どのぐらいの人数を受け入れできるのかと、昨年の入学者数を教えてください。

【高校教育課長】

募集できていない部もありますが、何人という枠を決めているわけではなくて、枠については若干名としか申し上げることができないというのが実際のところですよ。

【奥委員】

そうすると、現在も学んでいるクラスの人数があると思いますが、そこで何名受け入れるかは、その学校が決めるという形なのではないでしょうか。

【高校教育課長】

志願者の人数から枠を絞る段階で、実際に受け入れることができる最大数を合格にするという流れになると思います。

【奥委員】

それでは、昨年の10月入学で合格された人数をそれぞれの学校別に教えてください。

【高校教育課長】

令和7年度について、大館鳳鳴高校は志願者がおりませんでした。秋田明德館高校の入学者は2名です。横手高校については4名です。3校を合わせて昨年の10月入学者は6名となります。

【奥委員】

受験人数も教えてください。

【高校教育課長】

明德館高校が5名、横手高校が4名です。

【松塚委員】

入学された明德館高校、横手高校の方々は、どちらかの高校に在籍して、退学等した後にもまた入り直した方なのか、それとも春の高校入試で残念ながら合格できなくて入学するというタイプの方なのか、その内訳の情報はありますか。

【高校教育課長】

その内訳までは承知していません。

【松塚委員】

昼の部と夜間の部がありますが、2名、4名の入学者は昼の部の方々でしょうか。先程の人数を昼間と夜間で分けて教えてください。

【高校教育課長】

明德館高校は受験者5名のうち入学者2名が3部ですので、夜間です。横手高校は1部が1名、2部の夜間が3名です。

【松塚委員】

10月の方は夜間が非常に多いということですか。

【高校教育課長】

昨年度はそうになっています。

【安田教育長】

他になれば、次に２つ目の「令和９年度秋田県立湯沢翔北高等学校専攻科学生募集要項について」、高校教育課長から説明をお願いします。

【高校教育課長】

報告事項（２）「令和９年度の湯沢翔北高等学校専攻科学生募集要項について」説明概要

- ・学科、募集定員、出願資格等は昨年度から変更なし。
- ・介護福祉科と生産技術科において、特別選抜及び一般選抜を実施。
- ・２次選抜は、一般選抜で定員に満たない場合に来年１月下旬から２月上旬にかけて実施。
- ・各学校では募集ポスターを作成したり、管理職が近隣高校に訪問し募集案内したりする予定であるなど専攻科の周知には力を入れている。
- ・専攻科は、学生一人ひとりに合わせた個別的な指導を丁寧に行っていることも大きな売りとなると考えている。

【安田教育長】

ただいまの説明について、質疑等ございませんか。

【奥委員】

湯沢翔北の専攻科目は、県内ではここにしかないと理解していますが、湯沢翔北以外にもっと広げていくことは今後の方向性としてありますか。また、この専攻科ができた背景、意図について教えてください。

【高校教育課長】

背景につきましては、高校で得られない専門的な資格を取得するために、教育として果たしていくものとしての地域の期待を受けて開校したと認識しております。平成２４年の開校以来、現在に至るまで入学者が定員をなかなか上回らない状況が続いていることから、現時点の方向性としては専攻科のＰＲを中心に行うことを考えているところであり、他の可能性を検討している段階ではありません。

【奥委員】

そうすると、地域からの思いみたいなものから設立された背景があるという認識でよろしいでしょうか。

【高校教育課長】

そのとおりです。

【奥委員】

地域からのそのような思いがもっと高まると、もしかするともっと広がっていく可能性があるという認識でよいのではないかと思います。

【安田教育長】

この地域での人材育成については、特に工業の部分に関して手厚くということに加え、その頃ちょうど福祉、介護に関しても地元からかなり強く作ってほしいという話がありました。以前はまだ子どもが多くいましたが、だんだん減ってきて定員割れが続いているものと思います。

【大塚委員】

この学科で国家資格の何が取れるのでしょうか。また、ここを卒業した場合、例えば短大や専門学校の卒業資格として就職できるのでしょうか、それとも高卒と同じなのかを教えてください。

【高校教育課長】

資格取得については、介護福祉科では介護福祉士の取得を一つの目標としており、それを取
得して社会に出ていると伺っています。生産技術科については、技能検定2級、3級というの
が主ですが、機械加工や電気機器組立等の検定取得を就職につなげているという形です。

【大塚委員】

専攻科卒は短大卒と同じでしょうか。学校卒ではあると思いますが、専攻科ですから高校の
単位を全部満たした上での単位取得になるので、専門学校卒と同じ扱いになるのでしょうか。

普通の企業であれば給料が違って一生を左右することにもなるので、どのぐらいなのかと思
いました。2年なので短大扱いと一緒にでしょうか。

【高校教育課長】

何々士という名前が取れるわけではないと思いますが、高卒と同じ扱いにはならないと思
います。そのままこの専攻科卒という形ではないかと思います。もし認識が違っていれば改めま
す。

【大塚委員】

看護などと同様に、専攻科と同じ形で専門学校卒扱いだったような記憶がありました。それ
によって、結構基本給が違ってきますので。

【吉村委員】

高校を卒業してから入るわけですので、専門学校と同等の扱いかと思いました。もし可能で
あれば後でいいので、どのような資格や扱いになるのかを調べていただければと思います。

【高校教育課長】

承知しました。

【松塚委員】

入学された数をそれぞれ教えてください。

【高校教育課長】

令和8年入試につきましては、介護福祉科は残念ながら入学者がおりませんでした。生産技
術科は5名です。

【松塚委員】

開校した時の背景は、地域のニーズが非常に高く人材を育てて欲しいということで、当時は
募集の人気もあったということですが、10年以上経って地域や社会の状況が変わってきてい
る中では、社会のニーズが変化してきているかもしれません。この近年、確か5名以下の数字が
続いていたと思いますから、これがずっと続く場合は、そもそもその科の継続も含めて検討す
る時期に来ているのではないかと思います。

【安田教育長】

今年、内部で少し検討をしてもいいと思いました。

【吉村委員】

この募集については、定員が割れていたりゼロであったりということは前から聞いていまし
たが、その対応としてどういうことをしてきたのでしょうか。

他の定員割れが多い学校も同様ですが、高校を卒業した後で入るという意味では、専門学校の
ような感じであると思います。この人たちは、そこで学びながらちゃんと生活ができるのか。
例えば、住む場所であったり、学校で実習に行きながらお金が稼げたりなど、そういうことも
少し考えてあげる必要があるのではないのでしょうか。単に「学びに来てください」というだけ

ではなかなか難しいと思います。学んでいく上で必要となる周りの環境も整えてあげなければ、今の時代では魅力がなくなります。

先ほど松塚委員が言われたように、周りの環境が求められた当時とはだいぶ違ってきていたとても、客観的に素晴らしいことをしているのであれば、来てもらうためのバックボーン、環境を整えてあげなければ、なかなか人は来ないと思います。このまま続けていくのであれば、そういったところまで考えていかなければいけないと思います。

【安田教育長】

それは寮などの意味ですか。

【吉村委員】

寮などもそうです。

【安田教育長】

寮はないと思います。広報などに関する環境整備的なことなのではないかと思っています。

【高校教育課長】

入学者の出身高校は、ほぼ県南の高校です。広報活動に関しては、例年、専攻科の職員が各高校に出向き、学校での実際の学びの具体を直に説明する形で行っていましたが、入学者の急激な減少に加え、各高校には、企業や大学、専門学校の様々な情報が寄せられており、そうした中から県立の専攻科を選んでもらうためには、管理職の先生方も含めてもっと良さを認識してもらう必要があることから、今年は湯沢翔北高校の教頭先生も精力的に広報活動に加わっていくという話を伺っております。そうした活動のやり取りの中で、先ほど話題になったニーズや高校が求めているものなどの情報収集をしていきたいと考えたところです。

【安田教育長】

広く広報はしているけれどもなかなか集まってこない。県南地区の子どもたちが中心ですので、県外からの入学者が泊まる場所まではなかなか及ばないような状況です。

【吉村委員】

部活動の課題とも同じですが、結局のところ、こちら側が教えたい、学んでもらいたいものを示して「来てください」ではなく、あちら側が学びたいことをこちら側で加味して作って与えるような形にしないと選ばれない状況ではないでしょうか。入学者が県南、県北、あるいは中央地区が中心になるということはあると思いますが、子どもたちはそれを飛び越して他県へ行ってしまいます。ですので、子どもたちが本当は何を求めている、それにどのように対応できるのか、多様性に関してどう向き合えるかをしっかり考えていかないと、多分ずっとゼロの辺りのままだと思います。どのように対応していくかを判断しなければいけないタイミングではないかと思います。

ゼロであっても、そこには先生がいると思いますが、先生方は何をするのでしょうか。

【高校教育課長】

ゼロというのは今年初めてですので、在校生の方の指導をしております。

【安田教育長】

今の話でいうと、介護福祉となると、県南であればおそらく六郷高校の知名度が圧倒的に高く、介護を勉強したい場合は六郷高校に行くというようにブランドで選んで来ています。ですので、早い段階で福祉分野に行く決めていれば、多分、六郷高校に行くと思います。あくまでも地元の雰囲気としてお伝えしましたが、もしかすると見直しが必要になるかもしれませんので、高校教育課は一度検討してください。

【安田教育長】

他になければ、次に３つ目の「令和９年度秋田県立湯沢翔北高等学校の専攻科入学者選抜の学力検査問題等作成方針について」、高校教育課長から説明をお願いします。

【高校教育課長】

報告事項（３）「令和９年度秋田県立湯沢翔北高等学校専攻科入学者選抜学力検査問題等作成方針について」説明概要

- ・各選抜の学力検査問題の作成方針は昨年度から変更無し。
- ・各教科等の目標・内容に即して基礎的・基本的な事項及びそれらを活用することについて、学習の成果を多面的にしっかりと把握できるような出題を心がけて問題を作成する。

【安田教育長】

ただいまの説明について、質疑等ございませんか。

【吉村委員】

人を集めたいと思うのであれば、湯沢翔北高校に特化した選抜方法として、例えば面接だけにするなど、本当にやりたい人を募集しているという感じで募集するのはいかがでしょうか。一般常識は当然あるのかもしれませんが、大学のＡＯ入試みたいに、面接や小論文に特化する感じで募集するのも一つの方法ではないかと思います。ハードルを低くしろというわけではありません。

【安田教育長】

そういったことも含めて検討します。他にいかがでしょうか。

【奥委員】

今のお話を受けてですが、入試方式云々よりも、その専攻科に入ったら何を学べて、どのようにその先に生かせるか。資格もそうですが、どういったところで活躍できるのかという見通しみたいなものをイメージとして持つことができれば、もう少し「行ってみたい」とか「学んでみたい」という子どもが増えるのではないかと思います。入試方式よりもまずはそういったＰＲなどが重要ではないかという感想です。

【安田教育長】

ありがとうございます。いずれにしても入学者が少なくなってきていますので、あり方も含めて、様々な意見をいただきつつ見直しをしながら進めたいと思います。

予定された案件は以上ですが、他にございませんか。

特になければ、以上で会議を閉じます。お疲れ様でした。